

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第19号

発行 / 大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所 / 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL / 06-6879-5021

脳卒中センター開設

各科専門医がチーム医療

阪大病院では脳卒中急性期の患者さまの治療を行う「脳卒中センター」を開設しました。脳卒中の患者さまの受け入れを高度救命救急センターに一本化し、救急医、脳神経外科や神経内科・脳卒中科などの専門医とコメディカルスタッフがチーム医療を行い、後遺症をできるだけ少なくすることを目指しています。

後遺症を減らすため

脳卒中は脳血管疾患のうち突然発症する病気で、脳の血管が詰まって起こる脳梗塞や脳塞栓、血管が破れるくも膜下出血などが知られています。脳血管疾患は日本における死因の第3位ですが、推計の患者数は第1位です。治療法の進歩により亡くなる患者さまが減ったのですが、早期に適切な治療をしないと重大な後遺症が起これ、寝たきりになったり、言葉がし



超早期の血管内治療で後遺症なく回復の可能性も

患者さまはCTやMRI、脳血管撮影などにより診断し、適切な治療方針を決めます。手術が必要な患者さま

センター開設に伴い、超早期の血管内治療も増加しました。血管内手術というのは、細い管を足の付け根から挿入して、脳の血管の詰まったところや破裂したところを治療する方法です。脳梗塞で発症後3時間以内が有効とされており、治療後すぐに、まったく後遺症もなく回復する

こともあります。センターは急性期の治療だけでなく、その後は保健医療福祉ネットワークが患者さまの地域の適切な医療機関を紹介、転院することになります。吉峰俊樹センター長は「脳卒中は早期の的確な診断と治療が大切であり、その基本は各領域の専門医とコメディカルスタッフによるチーム医療です。センター開設により、一人でも多くの患者さまが後遺症なく日常生活に戻れるようにしていきたいと考えています」と、抱負を語っています。

阪大病院は病院建物内と出入り口の周辺を全面禁煙としました。喫煙とたばこの煙を間接的に吸う受動喫煙が健康に及ぼす悪影響が明らかで、日本も批准している世界保健機関(WHO)の「たばこ規制枠組み条約」が今年2月に発効したことを受けて、禁煙ゾーンを強化しました。

全面禁煙を徹底

「入院を機会にやめたい」という患者さまも主治医に相談してください。予約の電話は06-6879-2551です(担当医・三上)。医師や看護師など病院職員も研修会を開くなど禁煙教育に積極的に取り組みますので、患者さまやご家族、お見舞いの方々も病院建物内全面禁煙にご協力ください。

患者さまとともに歩む

看護部

理念と基本方針を新しく

病院の「理念」と「基本方針」が新しくなりました。それに基づいて、これまでの看護部の理念を整理して、新たに看護部の「理念」と「基本方針」を掲げることになりました。看護部の「理念」は看護部の目指す方向性を示すものであり、看護師にとってよりどころとなるものとして、日々の看護実践の中で生かされることが重要です。従って、何を指して看護を実践するのかを十分に理解できるように、できる限りシンプルで、それでいて深みのある表現が望ま

しいと考えました。新しい看護部の「理念」と「基本方針」は別掲の通りですが、高度先進医療を実施する大学病院だからこそ、何よりも安全で質の高い看護を提供することが重要であると考えています。安全で質の高い看護の提供のために

は、豊かな人間性と高度な知識・技術が根底にあることが欠かせません。そして、専門家として患者さまのよきパートナーになれるということも看護師の大きな役割であると考えており、患者さまとともに歩む看護として表現しています。患者さまとご家族の思いやご意見は尊重されているか、私たちが実施しようとするものが、十分に説明できているか、と常に問いかけて、患者さまご自身がご自分にとって最善の治療やケアを選択することができるようにならなければならない。また、患者さまは心・身体・生活がばらばら存在ではなく、それらが統合されたかけがえのない一人の人間であり、この「人」を

理解して働きかけることをとても大切なことととらえています。多くの患者さまは、病を持ちながらの生活を強いられますが、その生活が、その人らしく自立したよりよいものになるようなきつかけを見いだしていただけるように支援することが重要であると考えています。これらのことを常に意識して行動し、心から患者さまに満足していただけるような看護を提供したいと考えています。

患者満足度調査で高評価

平成16年度外部顧客満足度調査が、全国急性期病床500床以上の病院88施設を対象に実施された結果、阪大病院は入院の総合評価で4位、外来の総合評価で18位という結果を得ました。(次号で詳細をお知らせします)

看護部の理念

高度先進医療に対応した安全で質の高い看護を提供すると共に、豊かな人間性と高度な知識・技術をもった専門職者の育成と看護の発展に寄与する。

基本方針

- ・患者の権利を尊重し、患者とともに歩む看護の実践
- ・患者を全人的に捉え、心のこもったあたたかみのある適切なケアの提供
- ・優れた専門職者育成による社会・地域医療への貢献
- ・看護の質向上と業務改善に繋がる臨床看護研究の推進

ふれあい看護体験2005

今年度は、9人(男性3人、女性6人)の参加がありました。体験者の方は、各病棟において、患者さまに了解を得たうえで、看護師指導のもと、洗髪、足浴、清拭、病衣やシーツ交換、検温、血圧測定、血糖値測定、Babyだっこ、車イス護送、ベッド移動、患者さまとの会話、配茶、配膳などを体験されました。体験後の印象では、「忙しいのに看護師さんは一人ひとり笑顔で接しているのがすごいなあと尊敬しました」人と接するのが大好きで、私もあんな看護師になりたいって改めて思いました。絶対に看護師になれるよう受験も頑張りたい」責任感を持って、時間的にも大変なのに明るく元気に仕事をされている看護師を見て、自分も見習うべきだと思いました」信頼関係の大切さを改めて感じた。普段の生活に生かしていきたい」等々が寄せられました。体験者すべての人が8割以上満足され、大変喜んでいただけました1日でした。

七タコンサートに歓声

恒例の七タコンサートが7月7日に開かれました。今回は、入院患者さまだけでなく、一部外来患者さまにも楽しんでいただくこと、開始時間を早め、午後5時からの開催となりました。



第一部では、地域の愛好者によるトーンチャイムの演奏でさわやかな澄んだ音色が観客を魅了し、第二部の大阪大学吹奏楽団によるダイナミックな演奏は患者さまたちを大いに元気づけたようです。ビートルズメドレーや演歌メドレーでは大いに盛り上がり、最後には何度もアンコールの声飛び出すほどでした。

病院コンサートは、毎年七タとクリスマスの時期に定期的に行われていたが、今年から入院患者さまのくつろぎと安らぎのひとときを少しでも増やしたいという病院長の考えで、春と秋にもミニコンサートという形で開催することになりました。

携帯電話使用可能エリア設定

携帯電話から発する電磁波が病院の医療機器に悪影響があるとのことで、院内での携帯電話の使用は禁止してまいりましたが、6月1日から影響が少ないか、または他の患者さまに影響を与えない下記のエリアでの使用を可能としました。

なお、携帯電話の使用にあたりましては、他の患者さまのご迷惑にならないようマナーをお守りください。

1. 外来診療棟1階～3階 公衆電話の周辺(1階エスカレーター下の公衆電話は含みません)
2. 売店、食堂等のサービスエリア
3. 病棟のデイルームと個室(一部の病棟では使用できません)

注: 病院玄関ホールと各病棟の掲示板に使用可能エリアを掲示するとともに、該当エリアには黄色のライン等でエリアを示しています。

全国リスクマネジャー研修開催

大阪大学では文部科学省から委託を受け、今年度国公私立大学附属病院リスクマネジャー研修を5月11日から3日間、大阪大学コンベンションセンターで行いました。



全国の大学病院から医療安全に関係する医師、看護師、事務職員など208人が参加しました。16人の講師から医療事故の教訓の生かし方、患者相談のあり方、個人情報保護法と医療安全などについて学びました。また、医療安全の専門家や専任リスクマネジャーの人材育成についての意見交換も行いました。

参加者からは、大学病院間での研修や情報交換は各病院の医療安全の推進・強化につながると大変好評でした。

貸し布団料金を改定

患者さまやご家族が使われる貸し布団は、これまで使用期間が10日未満の場合は、日数に関係なくA～Cセットについて一律の料金でしたが、本年6月1日から下記の料金に改定されました。詳しくは「院内貸布団部(内線6599)」へご確認ください。

Aセット		
(ふとん上下、枕)	10日未満	2,500円
	但し1泊のみの時	1,300円
Bセット		
(ふとん上下、枕、ベッド)	10日未満	3,500円
	但し1泊のみの時	1,900円
Cセット		
(敷ふとん、枕、ベッド)	10日未満	2,600円
	但し1泊のみの時	1,300円

腎炎は尿のものを作る糸球体と呼ばれる毛細血管のかたまりに炎症が起こる病気です。IgA腎症は、免疫に関係するたんぱく質の免疫グロブリンA(IgA)が何らかの原因で糸球体に付着して炎症を起こします。

初期の症状は血尿やたんぱく尿ですが、微量でもあり精密検査をしないと腎炎だと気づくのが遅くなり、顔がむくむなどの症状が出てから治療を行うと、腎不全になってしまいう可能性が高い腎炎です。これまでの治療はステロイド剤の投与でしたが、炎症を完全に抑えることはできません。扁桃腺を切除し、ステロイド剤を投与する治療法はありましたが、客観的な治療データが不足していました。しかし、4年ほど前から有効であると報告が出されたために、阪大病院でも行うようになりました。



患者さまが簡単に透析液を交換できる腹膜透析

耳鼻咽喉科の協力を得て、扁桃腺を切除したあとに、ステロイド剤を1カ月間隔的に投与します。これまでに約20人にこの治療法を行いました。尿たんぱく尿が減少し、ステロイド剤の投与が不要となり、腎機能

医療技術部が発足

職種を越えて 交流で技術や安全性向上

診療放射線技師や臨床検査技師など診療を支える医療技術系の交流を深め、より安全で質の高い医療技術で診療を支えようとして、4月から医療技術部、部長、小水満・放射線部技師長)が発足しました。

放射線部や検査部で働く技師やハビリテーション部の理学療法士、作業療法士、医療機器の調整や修理をする臨床工学技士らはこれまでほとんど交流がありませんでした。お互いの職種や技術

に対する理解を深め、お互いの得意とする技術を取り入れることで、技術の向上や安全性を高めることができるといいます。既に「患者介助法」をテーマに研修会を開きました。理学療法士

から体の不自由な患者さまの扱いなどを聞きました。放射線部や検査部の技師らは患者さまの検査をする際の、患者さまの負担にならない体の扱い方を理論的、実践的に学ぶことができました。小水部長は「これからお互いの技術を知ってもらうために研修会を開き、技術の向上に努めることもあります。患者さまの疑問や不安を

阪大病院では患者さま第一の医療を行っています。患者さまが治療の効果に疑問や不安を持たれたり、ケアに不満を持たれたりすることもあります。患者さまの疑問や不安を

治療効果に疑問、ケアに不満... 診療・看護相談室へ 第三者交えて話し合い

担当部署外の第三者を交えて話し合う窓口「診療・看護相談室」を設けています。阪大病院における医療の質や倫理、安全性に關しては、院内の倫理委員会や医療クオリティ委員会などと審議するとともに、勉強会、研修会などを開いて常にチェックしています。

また、患者さまには診療方針や治療について、十分に説明し、納得いただいたうえで行っていきます。しかし、患者さま自身やご家族が説明に納得されないこともありますが、また、医師や看護師が最善を尽くして

IgA腎症治療に効果

扁桃腺切除とステロイド剤のパルス療法

阪大病院腎臓内科では日本人に多い腎炎、IgA腎症の治療に扁桃腺切除とステロイド剤のパルス療法を行い、治療効果を上げています。また、透析が必要な腎不全患者さまに日常生活に支障が少ない腹膜透析を積極的に導入しています。

も正常になった患者さまが何人もおられます。長澤康行医師は「若い患者さまが多いので、腎不全に至らず、腎臓病の終着駅は腎臓機能がなくなってしまう末期の腎不全で治療の必要がなくなる寛解の状態にできるこの治療法は有効だと考えています」と話しています。

血液から老廃物を除去するために透析を行うことになりました。透析には血液透析と腹膜透析があります。血液透析は週3回透析機のある病院に通院し、1回約4時間透析しなければなりません。そのために、日常生活が大きく制限されてしまいます。

阪大病院ではこの欠点を補うために、家庭や職場でも透析ができる腹膜透析を導入しました。腹膜透析は残っている腎機能を少しでも長

した。腹膜透析は腹膜に透析液をためておいて、1日に3～5回交換する透析です。清潔な場所があれば、透析液は患者さまが簡単に交換でき、仕事ももちろん、旅行にも気軽に行けるなど日常生活に支障をきたしません。夜寝ているうちに透析液を交換するだけで1日交換する必要がない腹膜透析も開

発されています。腹膜透析は残っている腎機能を少しでも長

患者さまの入院生活に快適に過ごしていただき、早く元気になっていただくことと給食のメニューを患者さまに選択していただけるよ

「腹膜透析は患者さまの体に優しい透析です。患者さまの年齢や生活に合わせて、腹膜透析にするか血液透析にするかを患者さまに選んでいただいています」と話しています。

「腹膜透析は患者さまの体に優しい透析です。患者さまの年齢や生活に合わせて、腹膜透析にするか血液透析にするかを患者さまに選んでいただいています」と話しています。

給食メニュー選択制に

患者さまの入院生活に快適に過ごしていただき、早く元気になっていただくことと給食のメニューを患者さまに選択していただけるよ

「腹膜透析は患者さまの体に優しい透析です。患者さまの年齢や生活に合わせて、腹膜透析にするか血液透析にするかを患者さまに選んでいただいています」と話しています。

「腹膜透析は患者さまの体に優しい透析です。患者さまの年齢や生活に合わせて、腹膜透析にするか血液透析にするかを患者さまに選んでいただいています」と話しています。

「腹膜透析は患者さまの体に優しい透析です。患者さまの年齢や生活に合わせて、腹膜透析にするか血液透析にするかを患者さまに選んでいただいています」と話しています。

ホスピタリティ